

第2回観音寺市新道の駅市民検討委員会
資料

議題1 新「道の駅かんおんじ(仮称)」基本構想(素案)質疑事項について

- ① 和歌山県白浜町の「とれとれ市場南紀白浜」(5ha)のような、とれたてをすぐ調理して提供、こども広場の設置、また、トラック運転手、遠方の方が利用できる簡易マッサージ、立ち寄り風呂など、同様に、さらには道の駅になればいいと思いました。
- ② 授乳室を設置するなら、丸亀市のトイザラスのような、カーテンで個室になる使用がよいと思う。※災害時に妊婦や小さい子どもの母親、また、大規模災害時にケガ人や病人の隔離などにも使用できる。
- ③ 出かける場合は、市内より市外に出ることが多い…
 - a) 市内に若者が欲しがるとファッション店がない。
 - b) 子どもが1日中遊べるような公園が少ない。(こども園みたいなのがあれば理想です。)
 - c) 道の駅付近に、ショッピングセンターや公園などができると、集まる場としては良いと思います。
- ④ レストランなどは、徳島県三好市「はしくらレストラン」のような、見えるキッチンで地場野菜などをその場で調理してくれたりするようなキッチンを合わせると、魅力の一つになると思います。
 - a) 万葉や金時にんじんなど、一番おいしい食べ方を伝えることができる。
- ⑤ 子どものあそび場について
 - a) 琴平町の「サニーサイドフィルダー」のような、なんとなく安心する場がいいと思う。
※トイレも多く、芝があって、外での休憩場もありつつ、子ども(大人も)が自由に入れ、本を読めたり、イベントする場もあってよいと思う。

<<まちづくりについて>>

- ① 農業・漁業などの支援を知らない人もいます。金額的な事を含め、市内全員が知れば、興味のある人、少しある人も行動に移すことが、しやすくなるのではないかと。
↳ 発信をもっとすべきだと思う。
- ② 子育てしやすいまちとは(こそだてまっぴ GAKKEN より)
 - a) 子どもがいる家庭の移住支援、市内の人のマイホーム支援などもあると思いますが、一番は待機児童を減らすことかと思っています。“働けない=別の市で暮らすから”
 - b) ヘルパーなどのチケットなどが観音寺市にない。(三豊市はあった。)調べるとオムツなどの支援はあるが、いつからあったのか分からない。情報発信は少ないと思います。

議題2 第1回観音寺市新道の駅市民検討委員会後からの変更点について

変更点1

① SDGs と道の駅を追記

“将来像の実現に向けて、特に重要な取組について”を追記

場所:第2章1 2)SDGs と道の駅 P5

2) SDGs と道の駅 ←追加

- 持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）とは、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っており、発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



- 観光客だけではなく、地元の人々も多く行き交う道の駅は、情報発信の場としても適しており、社会的・環境的な問題を身近な問題として発信したり、地域に残された課題を考えたりする場所として活用されており、様々なSDGsに対する取組を道の駅より進めていくことが期待されています。

3) 大阪万博等近畿圏での観光動向 ←番号変更

～ 省略 ～

4) IT・ICTの進展 ←番号変更

～ 省略 ～

5) 南海トラフ地震、大雨による災害の恐れ ←番号変更

～ 省略 ～

第1回構想(素案) P5

変更点2

② 市民ニーズ(アンケート調査結果抜粋)

“観音寺市での満足度”を追記

“将来像の実現に向けて、特に重要な取組について”を追記

場所:第2章5 1)市民ニーズ)アンケート調査抜粋 P23、P24

1)市民ニーズ(アンケート調査結果抜粋)

本市では、「第2次観音寺市総合振興計画(後期基本計画)」の策定に向けて、市民が観音寺

～ 省略 ～

(1)観音寺市での満足度 ←追加

①定住について

- 今後も観音寺市に住み続けたいかの『居住意向あり』は 74.6%で、前回調査の77.8%より減少しました。
- 市民や中学生と比べ、高校生の居住意向が低く、子ども達の中では男性と比べ、女性の居住意向が低い傾向がみられました。

②市への愛着度について

- 観音寺市に対する愛着度は、『愛着あり』は 67.9%で前回調査の 77.0%より減少しました。
- 定住と市への愛着度は相関性があることがうかがえる中で、中学生を除き、愛着度が前回の調査より減少しています。とりわけ高校生については、減少が大きいことに留意する必要があります

(2)観音寺市の強み・特性 ←番号変更

～ 省略 ～

(3)観音寺市の課題について ←番号変更

～ 省略 ～

(4)観音寺市のまちづくりについて ←追加

①将来像の実現に向けて、特に重要な取組について

- 将来像の実現に向けて特に重要な取組について、割合が20%を超えるものは、1番目に「雇用」「創業」「産業」の強化による、地域経済の活性化」が 50.5%、2番目に「訪れたい」「住み続けたい」「住んでみたい」まちの魅力の向上」が 37.8%、3番目に「地震や災害に強く安全に安心して暮らせるまちの構築」が25.6%、4番目に「子育てニーズに対応した支援の充実」が 20.2%でした。
- 年齢別でみると、年齢が低いほど「子育てニーズに対応した支援の充実」の割合が高くなっています。

第1回構想(素案) P23～P24

変更点3

- ① 3つの核の「暮らす」「招く」「育てる」と4つの基本目標の整合性を図るため、“暮らす”に防災関連を追記
- ② 3つの核の説明が2回あるため、整理
- ③ 場所:第2章7「道の駅」の必要性 P28～P31

7 「道の駅」の必要性

このような厳しい状況から脱却し、本市の将来につないでいくためには、本市を「住みたいまち」「訪れたいまち」「未来につながるまち」としていくとともに、それらを

～ 省略 ～

次の3つの視点から今後の本市を牽引する核となる新「道の駅」を整備し、市民の日常利用はもちろん、広域から人を集め、本市に関わる人々の拡大を通して、新しい“にぎわい”を創出します。

“暮らし”の核 ～住みたいまち～

平日・休日を通して、市民が安全に安心して集い・遊び・楽しむ場所を提供し、笑顔あふれる暮らしを実現

- 市民が日常の生活における潤いと刺激を感じる日々を楽しみ、「住みたいまち」に暮らしている、住んでいるという満足感を伴う実感を味わう場
- 災害時に利用者や近隣住民が一時的に避難でき、復旧・復興時には物資などの中継地点として機能する暮らしの安全を支え、安心して暮らせる場

市民 ニーズ

子育て環境を向上し、定住の促進を進めることが重要な課題であり、次に掲げるような諸機能の中で優先順位をつけながら、日常生活・週末レジャー・市民が憩える場の充実が求められています。

また、近年の気象現象の変化によるゲリラ豪雨・集中豪雨や南海トラフ地震に備え、地震や災害に強く安全に安心して暮らせるまちの構築も求められています。

【念頭に置くべき、日常機能イメージ】

- | | |
|------------|-------------------|
| ① 楽しみの空間 | 小中高生が遊べる空間 |
| ② わらべの空間 | 就学前の子どもが遊べる空間 |
| ③ ふれあいの空間 | イベント・アウトドアができる空間 |
| ④ 健康の空間 | 健康活動ができる空間 |
| ⑤ 癒しの空間 | 動物と人間が幸せに共生できる空間 |
| ⑥ 食の空間 | 地域産品を食することができる空間 |
| ⑦ 食材の空間 | 地域産品の販売流通を展開できる空間 |
| ⑧ 集まりの空間 | 全国の産品が集まる空間 |
| ⑨ 乗り換えの空間 | 長距離バス等の乗り換えができる空間 |
| ⑩ 安全安心の空間 | 被災時でも安全安心な空間 |
| ⑪ 復旧・復興の空間 | 広域的な物資供給拠点となる空間 |

第1回構想(素案) P28～P31

“招き”の核 ～訪れたいまち～

地域資源をつなぎ、プロモーションすることで、本市に新しい人やモノの流れを招き入れる

- 本市来訪者に対しては、本市、広くは四国全体のゲートウェイとして、「訪れたいまち」をアピールでき、人とモノが集まる場

市民ニーズ

本市の資源である農畜水産業、商工業、観光業等への投資・消費の促進等の観点から、市外から来訪者を招き入れる核となる集客施設の整備を進めることが求められています。

その集客施設を活用し、効果的な情報発信の拠点となる機能、市内に点在する集客可能な施設等や観音寺市のイベントを繋げるようなネットワークの拠点となる機能なども求められています。

【念頭に置くべき、集客機能イメージ】

- | | |
|--------------|--------------------|
| ⑫ 発信の空間 | 市内の魅力を発信する空間 |
| ⑬ 滞在の空間 | 宿泊により市内の魅力を伝える空間 |
| ⑭ 乗り物の空間 | さまざまな交通手段で来場できる空間 |
| ⑮ 体験の空間 | モノづくり体験ができる空間 |
| ⑯ つなぎのしかけ | ゲートウェイとして四国をつなぐしかけ |
| ⑰ 周遊のしかけ | 市内の回遊性の向上を図るしかけ |
| ⑱ アート・文化のしかけ | アート・文化の魅力に触れるしかけ |

“育て”の核 ～未来につながるまち～

地域産業・製品の価値を高めるとともに、新たな事業にもチャレンジできる環境を整え、本市の経済成長を牽引する

- 本市の諸産業にかかわる人材の確保・育成や新たな産業や活動を引き起こしていく「未来につながるまち」としての、チャレンジの場

市民ニーズ

本市の雇用の場でもある、農畜水産業、商工業、観光業等の諸産業の振興等の見地から、次のような機能を念頭に置き、持続可能な雇用の創出が求められています。

雇用の場の確保に向けた企業誘致や、就労ニーズにマッチした雇用の場づくりによる「人を育てる場」が求められています。

【念頭に置くべき、雇用創出機能イメージ】

- | | |
|---------|--------------|
| ⑲ 挑戦の空間 | 人材育成ができる空間 |
| ⑳ 学習の空間 | 諸産業の体験ができる空間 |

以上の、3つの視点から、今後の本市を牽引する核となる新「道の駅」が、所期の効果を発揮することは、本市の様々な施策(子育て・教育施策、商工業・農畜水産業振興施策、観光促進施策等)を束ね、それらの諸活動を象徴化し、広報・PRとして活用し、新「道の駅」施策と各施策との相乗効果を発揮させるという点においても、大きな意味を持つこととなります。それは、新「道の駅」に、本市を進める「住みたいまち」「訪れたいまち」「未来につながるまち」の3つのまちづくりにおいて、にぎわいの核・シンボルとしての位置づけを与えることができ、新「道の駅」が本市を進めていく諸施策と相まって、本市が抱える課題の解決に大きく貢献できる考えのもと、以下、第3章において、基本理念や基本目標を記しました。

第3章 基本理念・基本目標の設定

1 新「道の駅」の基本理念

新「道の駅」の基本理念は、以下のとおりです。

【新「道の駅」の基本理念(テーマ)】

「暮らす」「招く」「育てる」の真ん中で、新たな交流や体験を生み出す道の駅

~○○○○○○○○~

新「道の駅」を核に、「暮らす」「招く」「育てる」の3つの視点から、市民や来訪者を市内外の産業や資源につなぎ、本市のみならず、広くは西讃地域や四国全体のゲートウェイとして、にぎわいを広域に波及させます。本市との交流人口の増加、交流人口よりも強い結びつきを有する関係人口の増加により、本市と全国をつなぐ拠点とします。

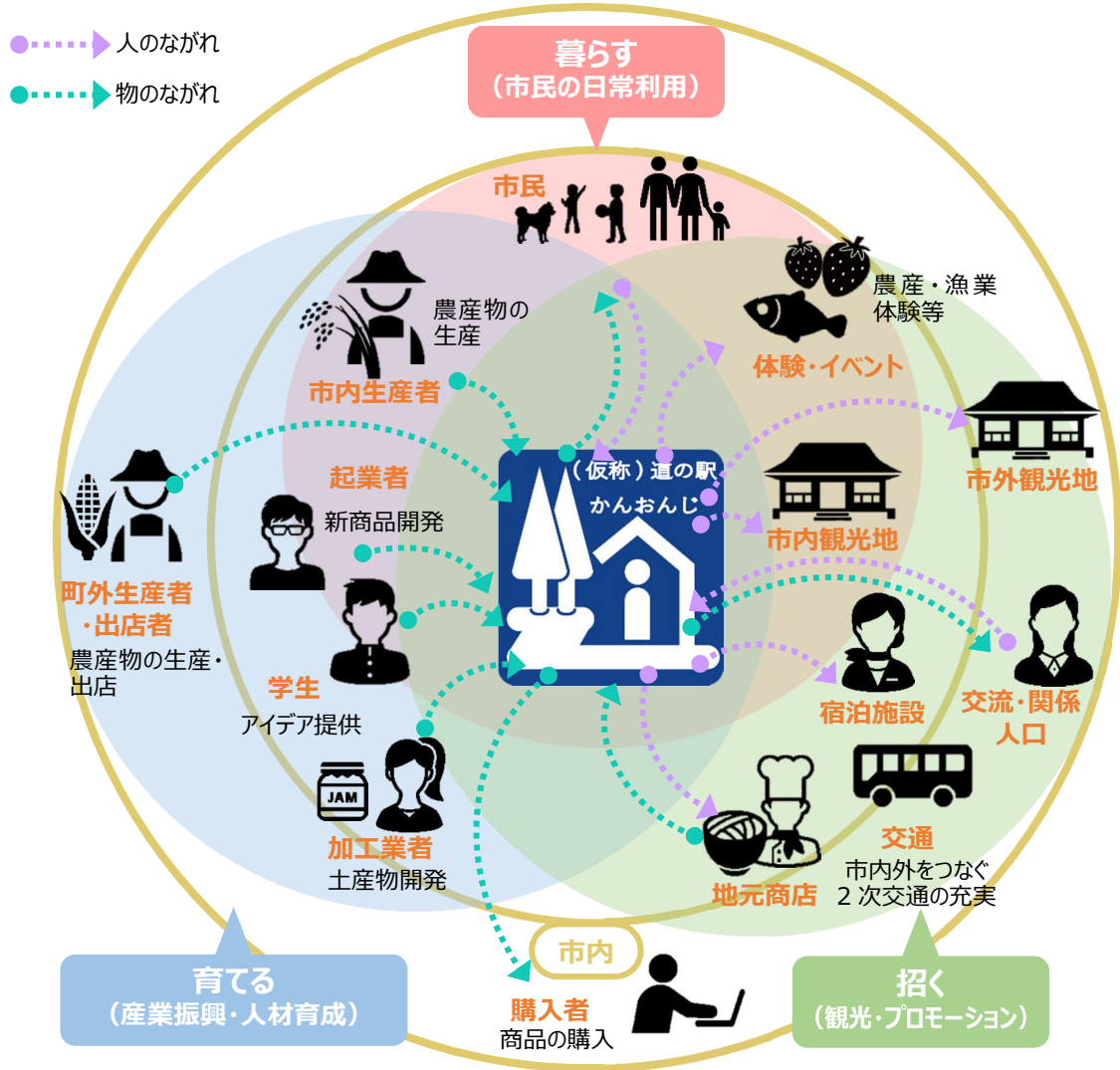


図1 新「道の駅」の基本理念(テーマ)

変更点4

- ① 具体的な機能の記載については、削除しシンプルにする

場所:第3章1「道の駅」の基本理念【新「道の駅」の基本コンセプト】 P33

【新「道の駅」の基本コンセプト】

新「道の駅」の基本コンセプトは以下のとおりです。

「暮らす」

■市民の誰もが安全に安心して日常的に集まれる空間

- 安全性を確保したうえで、子育て層が日常的に遊びに来たり、市民が日常的に安全に安心して集う場として利用したりすることで暮らしの根幹となる道の駅

「招く」

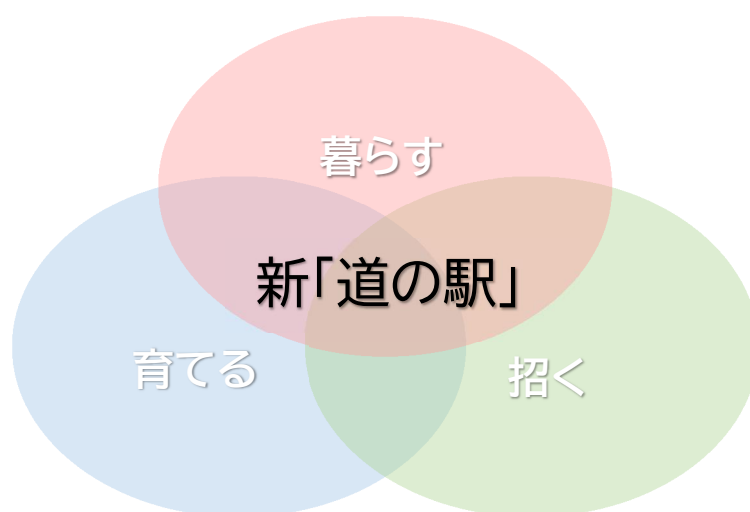
■本市や周辺地域の魅力にあふれる空間

- 道の駅を通じ五感による様々な体験を提供し、市内観光地や周辺市町村の観光地、市内のイベントなどをつなぐことで来訪者を招き、回遊させ、様々な楽しみを提供する仕組みを創出する市の核となる道の駅

「育てる」

■本市の新たな魅力を創造する空間

- 付加価値の高い商品が集まる仕組みや産学官連携による新しい商品を生み出す仕組みにより、商品が充実し、様々な食やお土産を提供している道の駅



第1回構想(素案) P33

変更点 5

① 分かりやすい SWOT分析に変更

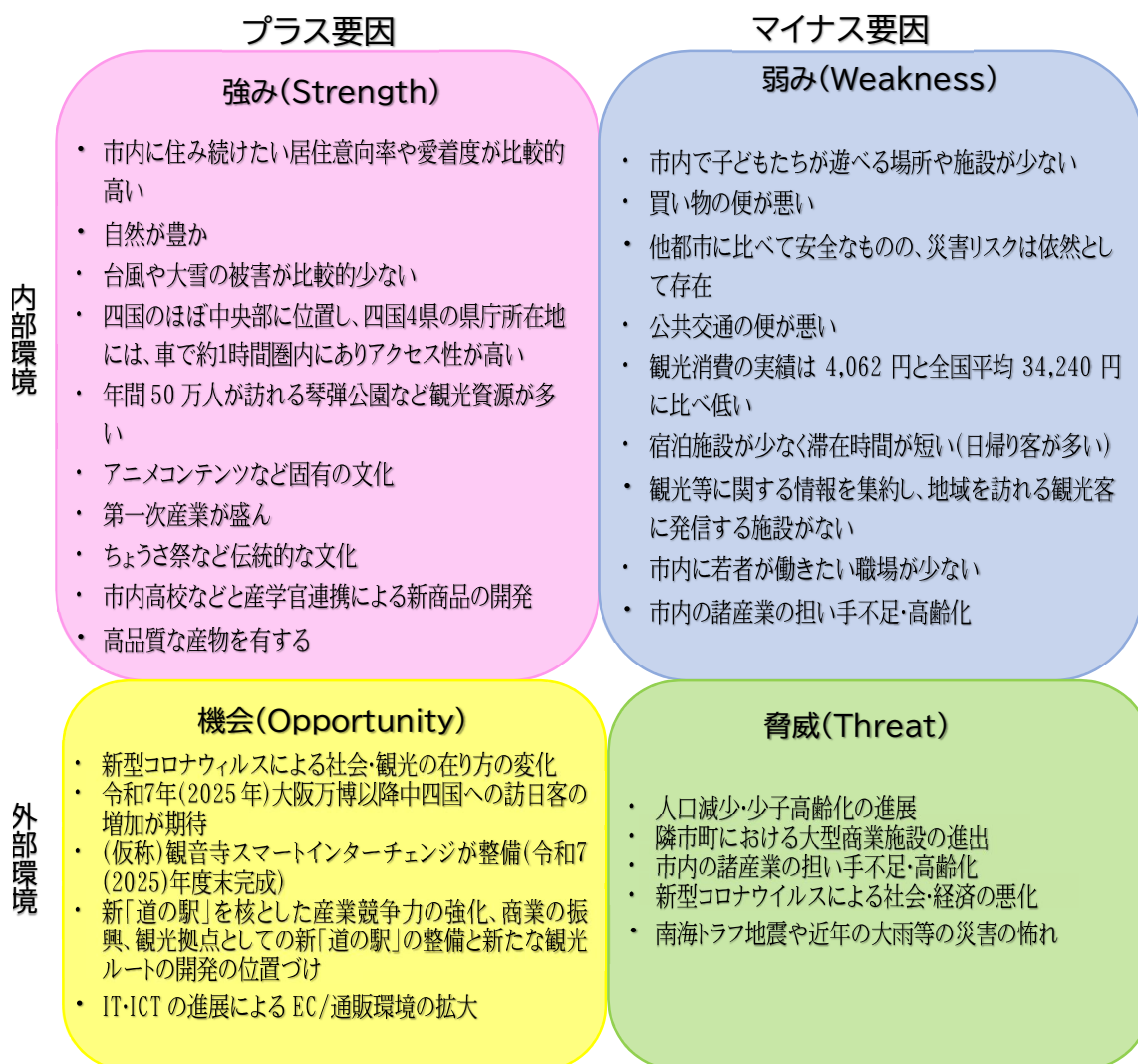
場所:第3章2 2)観音寺市の課題と道の駅の基本目標 P34

2 4つの基本目標

1)観音寺市の課題と道の駅の基本目標

現在、本市には2か所の道の駅が整備されていますが、市内や周辺地域に対して大きな求心力のある道の駅にはなっていません。そのため、本市の現状・課題及び上位計画、社会動向等を踏まえ、新「道の駅」を整備することにより本市の抱える課題を解消し、地域の活性化につなげていくための基本目標を以下のように整理します。

SWOT 分析(観音寺市の課題解決に向けた4つの基本目標)



第1回構想(素案) P34

変更点6

- ① 基本目標の展開イメージを第4章1 導入機能施設例に集約し、基本目標に修正
場所:第3章2 2)基本目標の展開イメージ P35

基本目標

基本目標1 全ての市民が日常的に訪れ、交流できる拠点づくり

～市民のみならず周辺地域の住民が日常的に訪れることができる場となり、全ての世代が交流を体感し、地域のにぎわいを創出する～

基本目標2 地域住民・産業への活性化に貢献する拠点づくり

～地域産品を取り扱う団体など、多種多様な業種が横断的に係わる協同の場とし、地域のにぎわいを創出する～

基本目標3 観光客を呼び込み地域外からの消費・投資を促す拠点づくり

～本市の豊かな地域産品を生かし、多くの観光客を道の駅に呼び込み交流・関係人口の拡大を図ることにより、地域外からの投資・消費を促し、地域のにぎわいを創出する～

基本目標4 災害時の安全・安心な拠点づくり

～多発している豪雨や南海トラフ等巨大地震の発生に備え、市民や訪れた利用者が安心して利用できる場所として安全・安心を提供する～

第1回構想(素案) P35

第4章 導入機能の整理

1 導入機能施設展開イメージ

道の駅の基本3機能も踏まえ、4つの基本目標より以下に示すような導入機能展開イメージを整理しますが、今後策定します。

表 7 導入機能展開イメージ

道の駅基本3機能		導入機能イメージ	
休憩機能		駐車場、トイレ、シャワー室、授乳室、ミルク・おむつ販売 など	
情報発信機能		道路交通・観光・ふるさと納税・緊急医療・災害情報発信 など	
地域連携機能		行政サービスコーナー、コミュニティスペース など	
基本目標 No.	基本目標	展開 No.	基本目標の展開イメージ
1	全ての市民が日常的に訪れ、交流できる拠点づくり	1-1	子育て世帯が親子で時間を過ごせる屋内での子どもの遊び場づくりなど、家族が気軽に集える場を提供する。
		1-2	全ての世代が、健康運動、レクリエーション活動、イベントづくりやイベント参加ができる場所を提供する。
		1-3	ペット連れの利用者が、滞在しやすい環境を提供する。
		1-4	市内の地場店舗などと連携しながら、市民の日常の買い物や食事の場を提供する。
2	地域住民・産業への活性化に貢献する拠点づくり	2-1	多種多様な地元の農畜水産物や地域産品などを紹介・販売する場を提供することで、地域経済拠点の形成につなげる。
		2-2	SNSやEC/通販の活用により、地元の地域産品などのブランド力強化による販売の促進を図り、地域経済の活性化を図る。
		2-3	産学官連携による季節の新品、目玉商品やプライベートブランド商品を多種多様な業種により共同開発し、高付加価値商品を継続的に創出する。
		2-4	市内の産業振興や市民の自己実現にチャレンジできる、人材の育成に資する拠点とする。
3	観光客を呼び込み地域外からの消費・投資を促す拠点づくり	3-1	観光協会や周辺自治体等との連携により、広域的な観光情報等を把握できるコンテンツを集積し、四国の中心に位置する地理的な特長を生かし、四国全域のゲートウェイとしての役割を担う。
		3-2	豊富な地域産品を素材にした創意工夫の食事や地元有名店の参画を促し、本市ならではの食の魅力を提供・発信する。
		3-3	全国の道の駅、産直市場や有名ショップとの広域的な連携を継続的に図り、全国の有名産品提供やイベント交流などにより、集客の持続性を図る。
		3-4	本市の観光特性を活かした五感を感じる様々な体験を提供する。
		3-5	市内の既存道の駅、観光施設、地元商店街等との連携強化により、イベントや地域通貨などを活用し、市内全域の回遊性を向上する。
		3-6	アート・文化の魅力を発信し、市内に点在するアート作品との触れ合いや名所旧跡などを巡るツアーなどへの参加を促し、癒しのある時間を提供する。
		3-7	周辺地域観光拠点を周遊するシャトルバス、空港リムジンバスや高速バスの地域交通の拠点機能を整備し、市民や利用者の移動手段を確保する。
		3-8	のりあいバス、観光バス、運送トラック、EV自動車、ロードバイク等さまざまな交通手段や用途で来場できるよう駐車施設や宿泊機能などを提供する。
4	災害時の安全・安心な拠点づくり	4-1	防災対応型エネルギー供給システムの活用により、災害時にも通信、各種電源、トイレ機能等を維持し、市民や訪れた利用者が安心して一時避難できる場とする。
		4-2	緊急医療情報や災害情報など防災に関する情報を提供する。
		4-3	被災時は、広域的な物資供給や復旧・復興支援活動の拠点となる施設として活用する。

定する基本計画において、市民や事業者との意見交換などにより機能の効果検証を行い、具体的な導入機能・施設を

変更点7

展開イメージ、3つの核、空間の関連性を記載し、基本計画において検討しやすいようイメージを具体的に記載しました。

基本計画の作業部会において、市民や事業者との意見交換により、導入機能の効果検証により、優先順位を決定し導入機能や面積などを決定します。

場所:第4章1 導入機能施設例 P36

No.	核	空間	空間概要	空間内容（導入機能イメージ）
①	暮らし	楽しみの空間	小中高生が遊べる空間	公園 など
②	暮らし	わらべの空間	就学前の子どもが遊べる空間	全天候型遊具 など
③	暮らし	ふれあいの空間	イベント、アウトドアができる空間	イベント広場、キャンプ など
④	暮らし	健康の空間	市民の健康活動ができる空間	公園、サークル活動室 など
⑤	暮らし 招く	癒しの空間	動物と人間が幸せに共生できる空間	ドッグラン など
⑥	暮らし 招く	食の空間	地域産品を食することができる空間	レストラン、地元店舗出店スペース、カフェ など
⑦	暮らし 招く 育てる	食材の空間	地域産品の販売流通を展開できる空間	地域産品出荷者、加工品店、地場店舗販売スペース など
⑦	暮らし 招く 育てる	食材の空間 (再掲)	地域産品の販売流通を展開できる空間	地域産品出荷者、加工品店、地場店舗販売スペース など
⑫	招く	発信の空間	市内の魅力を発信する空間	イベント活動、地域産品、PB商品の発信やふるさと納税などのプロモーション など
⑲	育てる	挑戦の空間	人材育成ができる空間	チャレンジショップ、産学官連携による新商品開発室（連携ラボ）など
⑲	育てる	挑戦の空間 (再掲)	人材育成ができる空間	チャレンジショップ、産学官連携による新商品開発室（連携ラボ）など
⑳	育てる	学習の空間	諸産業の体験ができる空間	地域資源発展のため産業振興窓口の開設による諸産業の教育・就業体験工房 など
⑯	招く	つながりのしかけ	ゲートウェイとして四国をつなぐしかけ	周辺自治体や施設の観光窓口・コンシェルジュ、広域展開周遊バスなど
⑥	暮らし 招く	食の空間 (再掲)	地域産品を食することができる空間	レストラン、地元店舗出店スペース、カフェ など
⑧	暮らし 招く	集まりの空間	全国産品が集まる空間	全国道の駅、全国産直市場、全国有名店舗などの出店スペース など
⑮	招く 育てる	体験の空間	モノづくり体験ができる空間	諸産業や地場産品のモノづくり体験工房 など
⑰	招く	周遊のしかけ	市内の回遊性の向上をはかるしかけ	市内イベントや観光拠点への周遊バス、地域通貨や割引などを活用した地場商店をつなぐ
⑱	招く	アート 文化のしかけ	市内の魅力に触れるしかけ	市内に点在するアート作品などを巡る周遊バス など
⑨	暮らし 招く	乗り換えの空間	長距離バス等の乗り換えができる空間	高速バス、リムジンバスの停留所 など
⑬	招く	滞在の空間	宿泊により本市の魅力を伝える空間	宿泊の窓口予約、宿泊施設の推進、RVパーク など
⑭	招く	乗り物の空間	さまざまな交通手段で来場できる空間	レンタサイクル、サイクルステーション、EVステーション、のりあいバス乗り場、観光バス駐車場 など
⑩	暮らし	安全安心の空間	被災時でも安全安心な空間	次世代エネルギー、非常用電源装置、耐水性貯水槽、災害用トイレ、ヘリポート、防災用備蓄、防災情報 など
⑩	暮らし	安全安心の空間 (再掲)	被災時でも安心安全な空間	次世代エネルギー、非常用電源装置、耐水性貯水槽、災害用トイレ、ヘリポート、防災用備蓄、防災情報 など
⑪	暮らし	復旧 復興の空間	広域的な物資供給拠点となる空間	広域支援部隊の活動拠点 など

議題3 「道の駅かんおんじ(仮称)」をイメージする言葉

先進地の一例

- 1 熊本県 荒尾市 開業 令和6年度～令和7年度 予定

「道の駅あらお(仮称)」のコンセプト

しあわせと元気の創造ステーション

～有明の海と小岱の山で紡ぐ「食ものがたり」～

「道の駅あらお(仮称)」は、荒尾市、さらには熊本県における北の玄関口として、活力を呼び込む「ゲートウェイ」と位置付け、魅力を発信するとともに、「道の駅」をハブとした地域の魅力を渡り歩く旅を提案します。

また、本市の地域資源を活用し、「食」を中心とするサービスにより「元気」を生み出すことで地域経済の循環を拡大し、市民、来訪者、小さな子どもからお年寄りまで、誰もが生き生きと過ごすことで「しあわせ」を感じる場の創出を目指します。

- 2 福岡県 大川市 開業 令和9年度末 予定

「大川の駅」事業コンセプト

有明海、筑後川、筑紫平野に囲まれて

たのしく、あそび、くつろぐ

「環有明海域」や筑後川流域の体感型情報ステーション

- 3 香川県 高松市 開業 令和7年度末 目標

「塩江道の駅」コンセプト

「オンリーワンの価値を持つ道の駅へ」

豊かな自然環境と温泉地としての歴史、そこに医療施設が連携することにより、ここにしかないオンリーワンの価値を持つ道の駅として再整備します。

4 宮城県 南三陸町 開業 令和4年 10 月開業

三陸町道の駅 整備コンセプト

三陸町の元気と交流を創造する道の駅

～**想いが交わる心の駅**～

- ①「森里海ひと いのちめぐるまち」を発信する拠点
- ②ポータルセンター(町外者への情報発信、町民の交流の場)を拡充しながら継承する拠点
- ③震災と創造の架け橋となる拠点

5 岩手県 盛岡市 開業 令和5年度 予定

盛岡市道の駅 基本コンセプト

道の駅は、私たちの未来を創る^{ゆめ}希望のステージ

～**石川啄木が愛した森岡・玉山を感じる道の駅**～

道の駅を将来にわたり持続可能な地域を創るための、手段・ツール・ステージと位置づけ、道の駅の基本機能に郷土の歌人である石川啄木を中核イメージとし活用し、盛岡・玉山を「知って」「見て」「買って」「食べて」「遊び」何度も訪れたい場所を目指す。

6 埼玉県 桶川市 開業 令和7年3月 予定

「桶川市道の駅」テーマ

「**つなぐ つながる つなげる 道の駅 べに花の郷 おけがわ**」

【コンセプト】

- 『“東京から1時間” 都市と古郷^{ふるさと}の交差点』
- 『“陸・空・川のネットワーク” を活かした防災拠点』
- 『“手ぶらを楽しむ” 地域の百花店』

観音寺市新「道の駅かんおんじ(仮称)」の基本理念

【新「道の駅」の基本理念(テーマ)】

「暮らす」「招く」「育てる」の真ん中で、新たな交流や体験を生み出す道の駅

~○○○○○○○○~

【新「道の駅」の基本コンセプト】

「暮らす」 「招く」 「育てる」

【観音寺市が提案する「イメージすることば」】

※キャッチコピー(愛称)は、開業前に選定予定

- 案1 賑わい・ときめき・安らぎの交流拠点施設
- 案2 買って・食べて・楽しんで、賑わいの交流拠点施設
- 案3 人と地域産業をつなぐ交流拠点施設
- 案4 チャレンジステーション
- 案5 にぎわいボックス
- 案6 暮らして・招いて・みんなが育つ クリエイトな道の駅
- 案7 センター オブ THE NIGIWAI (※本当は、バスリング センター)
- 案8 Flagship for changing kanonji
- 案9 Flagship for change in kanonji
- 案10 四国のセンターステーション
- 案11 ここから始まる四国の旅
- 案12 新しい魅力に出会える(を発見する)場所

